



せせらぎの間こえる道に中世のおもかげを辿る

名張市 奈垣周辺

近鉄「名張」駅から南東へ3キロ余り離れた「つつじが丘」は、郊外に広がる住宅街。今回はここを起結点として、奈垣と呼ばれる地域を中心に歩きます。

住宅街から少し歩くだけで、雰囲気が大きく変化し、山中に入り時代を遡ったような趣きのある風景が続きます。付近には中世の北畠氏の武士たちの居城跡などが点在し、コース沿いにある社寺も、中世の武士にゆかりのある場所。所々にせせらぎの音を聞きながら、つつましくも力強い、昔の人々の祈りの場所を訪ねての散策です。

案内をお願いしたのは、「ボランティアガイドおきつも」の松本直美さん。伊賀の名所を知り尽くしたガイドさんお勧めの、穴場的なコースです。起伏の多い道なので、古の物語に思いを馳せながら、自然を楽しみ、ゆったり歩くのがお勧めです。

取材・文：堀口裕世

住宅街から一気に山中へ

縦横に整備された道に沿って、家々が立ち並ぶ「つつじヶ丘」。今回は、「つつじヶ丘」のバス停からスタートです。



「つつじヶ丘」のバス停

「つつじヶ丘」中央の通りを南へ進み、南端の分岐点で右の坂を下ります。ここは非常に急な下り坂。交差する道の下をくぐると、道の両側の風景が一変し、山里にきたようです。林の中を大き



急坂のカーブ地点



國津神社の一の鳥居



妙楽寺の本堂



下山氏の一族の墓もある裏山

く右に左にとうねりながら続く坂道は、次第になだらかになります。

しばらく歩くと、道は鋭角に左に折れ曲がり、再び急な下り坂。この坂の正面、白壁の蔵がある家の下で、また右に大きくカーブ。ここから眼下の風景を見下ろすと、小高い丘の間に田園が広がり、これから歩く道が見えます。田の間にぼつりぼつりと家がある、昔ながらの日本の里らしい景色です。

田園の道を武将の眠る寺へ

坂を下りきって県道693号を右へ。



「ボランティアガイドおきつも」の松本直美さん



すぐに、左の細い道の脇に鳥居と石灯籠が見えます。これは、この先にある國津神社の一の鳥居。まずは鳥居の横の分かれ道を妙楽寺に向かいます。

妙楽寺は前方の小高い丘の麓。「不動明王をご本尊とする真言宗のお寺で、昔は國津神社の神宮寺(別当寺)でした」と松本さん。本堂裏手の一段高くなった墓所には、中世にこの付近の土豪であった下山甲斐守とその一族の墓もありました。下山甲斐守は北畠氏に仕えていましたが、北畠氏が織田信長軍に敗れた後、第一次天正伊賀の乱では織田軍侵攻の



素朴なお不動様の磨崖仏



國津神社



蘭神社の小さな祠



山の神

手引きをして伊賀の土豪衆の恨みを買ったといわれていますが、第二次の戦いでは土豪衆とともに戦ったともいわれ、その行動には諸説あります。北畠家の再興のため、織田軍に協力する姿勢を見せるという両面作戦が、戦国時代を生き抜くための常道だったのかもしれない。

せせらぎが流れるお社へ

妙楽寺を出て鳥居まで戻り、左の坂道を上って行くと國津神社があります。神社の手前、小川に架かった小さな橋を渡ると、大きな岩が並ぶ一つに不動立像

磨崖仏があります。不動尊とはいえかわいいたく素朴なお姿。「昔は上から水を落とすようになっていたといわれています。江戸時代に彫られたものですが、平常眼という古い形の眼をしておられます」。

続いて國津神社へ。「國津神社は名張市内に8か所あります。このお社は、中を小川が流れていて珍しいんですよ」との言葉に本殿の下をのぞきこむと、格子の中に石造りの溝があり、水の流れが見えます。この清流が不動尊の前の小川に続いているのです。

双石仏と

小さなお地藏様に会いに

松本さんの後を本殿の右脇に進むと、石の小さな祠がお祀りされています。「蘭神社あぐらじといって、天明年間(1781~89)に疫病封じのためにお祀りされました。さらに奥には山の神さまも祀られています」。先ほど訪れた妙楽寺やこの國津神社付近も、手入れが行き届き、昔の素朴な信仰が今も地元の方たちに大切に守られているのを感じます。

さらに坂を上がり、数軒の民家を越え

ると、今度は下り坂。道がUの字に曲がったあと、二又に分かれます。その分かれ目に苔むした岩があります。「これは見張り台です。右手に広がっているのは下山甲斐守の城跡で、この石の上に立って、見張りをしたといわれています。この付近には、北畠具親とよちかやその臣下の屋敷や城跡がいくつもあるといわれています」。城は山の上にあったそうですが、跡には建物などはもうないとのこと。今回は山には上らず、城跡の山を見上げ、古のつわものたちの夢の跡を偲しのんでさらに進みます。

しばらく木々の間の道を歩くと、左からゆるやかに上って来る道と、急角度で下りてくる右からの道が鋭角に交差しています。まずは右の坂へ。カーブを描いて上がった先にあるのは蓮福寺です。「ここは、一つの石に二体の仏像が彫られた、双仏石があり、古いものは延元4(1339)年の銘があります」。蓮福寺から交差点に戻り、右の道を下ります。道に沿って流れる小川の水音を聞きながら進むと、一軒目の民家がありますので、その前で細い道を左の川の方に下ります。分かりにくい道です。

ご注意ください。小川に架かる橋の手前まで下りると左に岩があり、川に向かう面に小さなお地藏様が彫られています。地藏尊を拝んだら、蓮福寺下の交差点まで戻ります。右の林の中の道を道なりに進み、県道693号に出たら右へ。「名張市内・青蓮寺湖」の道標のある交差点を左に曲がると「つっつけヶ丘」に至る道です。

*ハスの本数の少ない時間帯がありますのでご注意ください。

問 名張市観光協会内

「ボランティアガイド おきつも」
TEL 05995-6319087



見張り台



蓮福寺



双仏石



川辺の地藏尊磨崖仏